

## 事業報告書 (令和2年度)

事業名 ユニークインプロワークショップ 2020

団体名 LOOP⑩ 担当者名 藤原 康典

※活動の様子がわかる写真(データもお願いします)と説明を必ず添付してください。

<p>1. 活動内容(日時、場所、参加対象者、人数、内容等)</p> <p>① ユニーク・インプロ・ワークショップ オンライン開催 (実質10回目;オンラインとしては1回目) 令和元年9月26日27日 参加対象者:発達障害・障害者を見守る全ての方。参加人数:総勢20名 場所:操山公民館 内容:発達障害を見守る親やその周囲の方、そして障害者を見守り方向けの即興劇の考えを基本に当事者に向けて見方を変えるワークショップ。 当初、対面式で開催予定でしたが急遽オンライン形式に変更して開催いたしました。その為内容も私たちユニークインプロの考え方のベースであるインプロにもクローズアップして動画制作・発信やオンラインワークショップを開催いたしました。</p> <p>② ユニークインプロワークショップ案内及び考え方パンフレット制作 昨年から流行し現在もその猛威ふるう新型コロナウイルスの為企画の変更もありそれを補う意味も含め啓発と理解を深めていただき、対面の企画が再開可能にあるときの為のパンフレット作製、配布を行いました(現在も配布中)</p> <p>※ユニーク・インプロ・ワークショップ ●令和2年6月開催予定分●令和2年12月開催予定分は新型コロナウイルス感染者増大及びそれに伴う感染予防の為開催を中止いたしました。</p>
<p>2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ</p> <p>ESDとしての視点は新型コロナの影響もあり対面WSの開催自体が出来ず今年はかなりその内容も変わったが急遽、設定したオンラインワークショップの開催への転換で媒体ややり方ほどのようなものになったとしてもESD活動として断続的にでも継続的に発達障害・障害者を取り囲む当事者への意識変革の種を感じさせるきっかけづくりを進めることが出来ると感じ、対面式以外でも発信し続けるべく方法・手法を検討するきっかけになった。当然現在続くこの新型コロナ禍の中その手法や方法をトライ&amp;エラーを繰り返しながら構築中です。</p>
<p>3. 取組の成果(参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など)</p> <p>今回思う存分のワークショップは展開できなかったがその分新たなアプローチであるオンラインやパンフに時間をかけることが出来、特にオンラインは改めて私たちが考える基本の考え方を丁寧に届けることが出来、参加者はより一層、細かい「ユニーク・インプロ・ワークショップ」考え方を体験でき次回対面が開催される時の基礎的考えを浸透することが出来たと考える。また、今回作成したパンフレットを配布することにより合わないまでも今企画の内容を浸透するきっかけづくりとなった。</p>
<p>4. 今後の課題と展望</p> <p>今年は新型コロナウイルス感染予防の為、すべての予定していた対面式ワークショップを中止せざるを得なかったため、2021年度が開催時期も用件し対面式の再開を検討するとともに今回のオンライン開催でわかった利点や有効性も十分に取得し、オンラインでは制限される中でも内容含め有効である手法、表現方法を探り参加者とのつながり方を模索、企画し実施していくことが課題と考えられる。またそのことが新たに開催内容、実施方法に取り入れられれば今後の今事業の展開もきめ細かく地域関係なく活動の場所が広がると考えています。</p>